

【 From Kobe 2015 年 5 月 】新緑の五月

野も山も里も 草木燃え 一番自然を感じる時
真っ青な空を 胸いっぱい吸い込んで

From Kobe2015

5.

1. 真っ青な空を 胸いっぱい吸い込んで
2. 最近流布される情報や政権のアナウスマントに違和感と疎外感
自分には一番納得できた 最近の新聞記事の紹介

1. 真っ青な空を 胸いっぱい吸い込んで



新緑の 5 月 野も山も里も 草木燃え 一番自然を感じる時

新緑の山を訪ねるのも スポーツに興じるのもよし また 街歩きも楽し

緑の中に身を置いて 真っ青な空を胸いっぱいに 身も心もリフレッシュ 思わず歌を口ずさむ



天候不順が続いた 4 月も下旬になって 真っ青な空が広がり、一気に野も山も新緑に。街も華やかに。

気分も晴れ晴れ、何かせずにはおられない。 ぶつぶつ 言ってもおられない。

戸外で楽しむ絶好の季節の到来。 新緑の中に身を置いて リフレッシュ。 うれしい春を楽しんでいます。

気がかりは最近の世相についていけなくなったと感じること。

4 月には地方選挙があり、景気も良くなり、何か時代がかわると政権は盛んにアドバルーンを上げていますか……。

年寄の出る幕ではないが、平和憲法を守ることを国是としてきた日本。「憲法」というだけで、時代遅れなのでは

うか……。 歯止めのない武力行使 それが本当に平和への道??? 何か腑に落ちない。 原発も同じ。「理」のないも

のは「ダメなものはダメ」自分の経験の中で研ぎ澄まされた感覚は何よりも「理」。 そんな思いも頭をよぎる。

気が付けば 日本がまた「アジアの孤児」にならぬよう 年寄だからこそ 自分と世間の距離感をいつもはからね

ば……と。 最近の流れにつけぬ自分。 自分にフィットする新聞記事を見つけると同志もいるのだと>

最近うなづいた記事をいくつか この欄でご紹介。 皆様にはフィットするでしょうか??

From Kobe 2015.5.1. by Mutsu Nakanishi

どう思われるでしょうか・・・

「 事実は無限にある。都合のいい事実だけをつなぎ合わせれば別の歴史も生まれる。

「 事実の断片と歴史の本筋をどうやって見分けるのか?? 何が一般的で 何が例外的なのか?
それは幅広い史料[事象]にあたり、マクロとミクロの両方から抑える必要がある。 」

この言葉はまさに科学者・技術者の視点と同じであり、かつて取り組んだ問題解決取組の視点と全く同じで、スッと受け入れられる。

かつて「だまし絵」を見て「事実といっても その視点 心の持ちようで、眺めている事実は多面性を持っている」とハッと気付いて「自分の眼を磨かねば、問題解決はできぬ」と物の見方が大きく変わったことがある。そんなことを思いながら、記事を読みました。

この「強制連行」問題や「朝日新聞」問題などばかりでなく、今この社会で起こっているさまざまな問題に対して、この「真贋の眼」で史実を自分なりに淘汰しないと「都合のいい事実だけのつなぎ合わせ」になってしまう。また、意に反した社会への誘導が進行してしまう。

自分の視点で 社会を今ほど大きく揺り動かせる時代はない。無関心はまた こんなはずでは…の悔いを残す。

誰もが好きに簡単に情報を集めて つなぎ合わせて情報発信できる情報化 IT 社会。玉石混合の情報が無数に漂っている。 やらせの情報が公然と垣間見える時代 どれほど多数のそんな情報が流れていることか・・・

自分にとって いやな情報でも眼をそむけては真贋の眼は磨けない。

また、まさに 別の歴史も独り歩きしていることを認識する必要がある。

この記事に記された歴史を見る眼 そして いたるところで都合のよい断片史実で作られた虚構の情報があふれている情報社会 ほんの数十年前にはなかった時代 今ほど真贋を見抜く自分の眼を磨かねば・・・。

日本人の一番不得意な力である。 それを意識して・・・と。

2. 朝日天声人語氏の疑問 パソコンとにらめっこばかりの医者には患者の状態がわかるのでしょうか??

「医師は患者の生まれや育ち、生活の背景間で知る必要があり、 患者の数だけ治療法があるというのに

「パソコンとにらめっこばかりの医者には患者の状態がわかるのでしょうか?? 」と天声人語氏はいう。

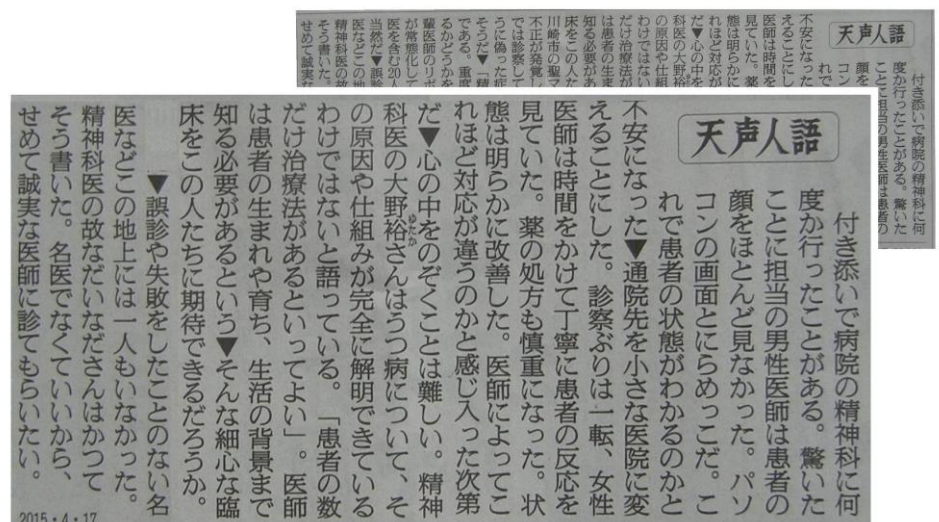
そういえば、パソコンに記されたマニュアルの薬を選ぶのに腐心する医者にびっくりしたことがあり、また それがスピーディーに治療してくれるいい評判の医者だという。「病気はマニュアルだけではなおせんぞ!!」と思いつつ、周囲を見渡すと そんな事例がいたる処で横行している。

想定外のことが起こっているのに「うまい手がある」とばかり、一事が万事 即物的

に想定と確率で、マニュアル通り推し進めることが最善判断だというのは、「想定外」の答を先に用意した言い逃れに映る。そんな風潮が日本に蔓延している。

忙しすぎる日本人 ちょっと立ち止まって考えてみよう。

さもなくば、よい知恵・判断もうかばず、どこかで 悔やみきれない「どか～ん!!」の道へ



朝日新聞 2015.4.17.「天声人語」より抜粋

「政治が介入判断するのは当たり前」とみんな普通と思いこまされているが、国際社会では異常???です

かつての共産主義・軍国主義の時代への逆もどりと国際社会は懸念する。でも 一般人はそれが普通と思ひ込まされていることに気付いていない。「一般人側の想定外」ではすまぬことにならねば良いがと。

日本の報道 萎縮していないか

政権の牽制 外国人記者の見方

東京・有楽町の日本外国特派員協会、16日昼、テレビ朝日の「報道ステーション」で安倍政権の「圧力」に言及して元経済産業省官僚・古賀茂明氏の記者会見に、数千人の外国人記者たちが集まった。古賀氏は、メディア側が政権とのあつれきを回避し、自ら表現の範囲を少しずつ狭め、その指摘、「国民が本当のしを知る」ことができなくなる恐れがあると語った。

「ドイツ紙の40代男性記者は『古賀氏と全く同感だ』と話し、古賀氏に『メディア幹部が飯粒部と飲食したり、ゴルフをしたりする光景は』と『考えられない』と話す。『メディアには権力を批判的に論じる役割がある。役割を疑われるのを恐る必要がある』と述べた。

また、メディアの役割は国によっても違う。例えば中国では多くのメディアが中国共産党傘下に置かれている。日本で約30年働いた男性特派員

「我々の役割は積極的に国のために宣伝をする」といふ。それだけに、日本のメディアには「政治家のスキャンダルや悪事をきちんと報じ、政府の意のままにはならないイメージ」を持っていた。ところが、ここ1年ほどの間に、一部の新聞などが政権を批判する記事が減ったと感じるという。

「政府が右と左のことを左と右と言っている、かな」とも発言するがNHKの会長を務めたり、「南京大屠殺はなかった」と公言する百田尚樹氏がNHK経営委員に在籍したり、日本の政権もメディアを宣伝機関にしたかつての中国とは異なる。一方、韓国主要紙の男性記者は今の日本の状況について「盧武鉉政権の頃を思い出す」という。2003年から10年間続いた盧政権は、記事について新聞社に「趣旨が違ふ」と指摘することをおこなったという。盧氏の取材告や、記者クラブの統廃合もあり、記者たちは盧氏の邸下に置いた台で記事を書いたり抵抗した。『政策のチェックや、問題点を提起するのがメディアの役割、それを制限しようとする側も、萎縮してしまう側も、結局、損するのだから受け手である市民に知らせるべきだ』と話す。

英紙ガーディアンのある東京特派員ジャスカー・マツカリ記者45は、自民党が昨年の衆院選報道でテレビ局に「公平中立」を求めた手紙を送ったことが気かりだという。これを報じる、報るなどと言われている、偉大なことをほめられている。ガーディアンは13年、米英情報機関による情報収集の実態をスクープし、政府から内部文書のデータ破壊を要求された。

マツカリ記者は「民主主義国家でも、権力が報道に圧力をかける事態は起きます。重要なことはメディアがそう対応する、だと強調。日本の報道機関が圧力を受け入れているようにみえることを懸念している」と語った。

17日には、自民党がテレビ朝日とNHKの幹部を呼び、番組内容について事情を聴

自民の聴取方針
市民団体が抗議
テレビ報道問題
自民党の情報通信戦略調査会（会長＝川崎二郎衆院議員）がテレビ朝日とNHKの幹部幹部を呼び、それぞれの報道番組の内容に關

Media Times
メディアタイムズ

2015.4.17.朝日新聞朝刊より

4. アベノミックス等による数字に見る地域格差の増大 政権の言うトリクルダウンは瓦解
インターネット デジタル 毎日新聞 2015. 4. 17. より by Mutsu Nakanishi

平均所得:自治体3割が所得減 多くが「消滅可能性都市」

每日新聞 2015年04月17日 06時00分 (最終更新 04月17日 11時30分)

総務省の統計に基づいて毎日新聞が算定した全国自治体の住民平均所得を見ると、アベノミクスで好況と言われる中、全1741市区町村の3割にあたる513自治体で、2013年の所得が前年より減少していた。このうち65%超の337自治体は、民間有識者会議の唱える「消滅可能性都市」と重なる。

関連記事

- ▶【数値で裏付け】アベノミクスで所得格差拡大
- ▶地域間格差の拡大 主因の一つに株式譲渡所得
- ▶【平均所得最低はどの市区町村？】人口減、地域再生遠く
- ▶【平均所得1508位】高知県北川村「知恵貸して」
- ▶【消滅可能性都市、活性度低い議会】
- ▶「アベノミクス」恩恵実感できず 内閣府調査

513自治体の平均額は287万1000円で、全国平均の327万4000円を上回ったのは、わずか2自治体だった。

全国平均に届かない下位自治体の多くで平均所得が減っており、富裕層の多い大都市部がより豊かになる一方、平均所得の低い自治体がより貧しくなっている。

都道府県ごとに所得減少自治体の割合を調べると、長崎 61.9%（21自治体のうち13）▽奈良 61.5%（39自治体のうち24）▽鹿児島 60.5%（43自治体のうち26）――の順に高かった。

5 1 3自治体は人口減少や少子高齢化が進む農村部がほとんどだが、県庁所在地の佐賀市や政令市の福岡市など都市部も交じる。東京都も全6 2自治体のうち8自治体で平均所得が下がったが、いずれも農村部や島しょ部の市町村だった。【和田浩幸】



平均所得:地域間格差くつきり 安倍政権下で拡大

毎日新聞 2015年04月17日 06時00分 (最終更新 04月17日 11時23分)

平均所得とジニ係数の推移



平均所得とジニ係数の推移

2013年の平均所得額

(単位・千円)

ベスト10		ワースト10	
① 東京都港区	12667	① 熊本県球磨村	1939
② 東京都千代田区	8988	② 熊本県山江村	1990
③ 東京都渋谷区	7566	③ 北海道上砂川町	2000
④ 兵庫県芦屋市	6317	④ 秋田県東成瀬村	2012
⑤ 北海道猿払村	6265	⑤ 岩手県九戸村	2029
⑥ 東京都目黒区	6159	⑥ 沖縄県大宜味村	2046
⑦ 東京都中央区	5931	⑦ 高知県大豊町	2062
⑧ 東京都文京区	5808	⑧ 沖縄県国頭村	2066
⑨ 東京都世田谷区	5364	⑨ 秋田県藤里町	2074
⑩ 長野県軽井沢町	5138	⑩ 沖縄県今帰仁村	2084

2枚目/2枚中

2013年の平均所得額 (単位・千円)

インタビュー

強制連行 史実から考える

2015年4月17日(金) 朝日新聞記事をA4版縦に整理して転載



歴史学者

外村 大さん

1971年生まれ。早稲田大学社会科学部助手を経て、早稲田大学文学部文化史学専攻、早稲田大学文学部文化史学専攻、早稲田大学文学部文化史学専攻、早稲田大学文学部文化史学専攻。

事実の断片つなぎ
労務動員を正当化
願望や妄想に近い
腰引ける自治体
歴史の真贋を
見抜く力が必要

戦時中、日本に動員された朝鮮人労働者の追悼を、歴史的な要求として、各地で「慰霊祭」が開催されている。しかし、この「慰霊祭」が、戦時中の朝鮮人を「慰霊」の対象として、歴史的な事実を歪曲している。歴史学者の外村大氏が、強制連行の歴史を追いかけて20年以上にわたる外村大氏と、東洋大学で話した。

強制連行の歴史に長くこだわってきたのは、なぜですか。
「どうせ韓国の味方でしょう」とか、どうも「反日」らしいとか、色眼鏡で見られがちですが、私は日本近現代史の、実証を重んじる研究者です。戦前の日本帝国の実像は、裏側からのほうがよく見える。今後、日本がどんな社会をつくるか、何を考えるか、という点で、未来のために記憶し、伝えていくべきだと思っています。」
強制連行は「なかつた」と主張する人がいますが。
「そもそも、朝鮮半島で、日本内地への暴力的な労務動員が広く存在していたことは、史料や証言からも否定しきれません。政府は1939年から毎年、日本人を含めた労務動員計画を立て、閣議決定をした。朝鮮からの動員数も決まり、日本の行政機構が役割を担った。手法は年代により『募集』『官あつせん』『徴用』『募集』『官あつせん』『徴用』と変わりましたが、すべての時期で、約70万人の朝鮮人が主に内地に送り出されました。」
「こんな当たり前の史実が近ごろ、なぜか曲解される。誤解や間違いも目立つ。歴史家の常識と、世間の一部の感覚とが、ずれてきたように感じています。」
なぜ、こんなふうに？
「特に90年代半ばからですね。史料の発掘が進み、いろんな話がでてきました。朝鮮人の待遇が日本人よりよくなったとか、自ら望んで来た人がいたとか。いずれも事実の断片ではあるんですが、じゃあ暴力的な連行や虐待は例外的だったかという点、それは違う。」
「事実」というものは無限にあるものです。都合のいい事実だけを、つなぎあわせれば別の歴史も生まれる。でも、それは「こうあってほしい」というめがねの願望や妄想に近い。慰安婦問題で国が直接、連行を命じた文書が出ていないことに乗じ、強制連行までも「なかつた」と言いたい人がいるのと同じ。」

事実の断片と歴史の本筋。どうすれば見分けられますか。
「何が一般的で、何が例外的な出来事だったかを見分けるには、幅広い史料にあたり、ミクロとマクロの両方から押さえる必要がある。日本の統治機関である朝鮮総督府の調べでは、太平洋戦争開戦前年の40年に朝鮮農村で「職業」を希望していた男性は24万人程度しかいなかった。朝鮮内部の動員や満州への移民もありましたから、その年代だけでも底をつくらぬです。翌年から人集めが大変になったのは疑いようがない。」
「実際、内務省が調査のため44年に朝鮮に派遣した職員は、動員の事情について『拉致同様の状況』と文書で報告しています。厚生省から出張した職員も45年1月、村の労働力の言葉として、住民から『袋だたきにされたり刃物で突きつけられたり命がけで』と報告している。それほど抵抗が広がっていたのに、日本帝国は無理に無理を重ね、逆に動員数を増やしていったのです。」
「ここまでして動員したのは、なぜですか。」
「政府が目指していたのは、あくまでも戦争勝利でした。そのために労働力を総動員し、石炭や食料を増産しようとした。朝鮮人の多くが投入されたのも炭鉱です。炭鉱は重要産業なのに人手不足で困っていた。待遇が悪く、監獄部屋に象徴されるように労働管理も劣悪だったから。本来なら機械化と意識改革を進めるべきでした。しかし業界は朝鮮農村の困窮や無知につけ込み、安い労働者を確保しようとした。」
「ただ、朝鮮に行政機構は整っていませんでした。識字率が低く、ラジオがおろか電気が通っていない村々で、日本内地に渡る労働者を集めるのは非常に困難な作業だった。とにかく若い男を呼び出し、最後はトラックに押し込むような事態になったのです。」

「募集」「段階では強制」と言えないという人もいます。
「初期の段階で当局は深く関わっていました。たとえば会社の募集係に同行し、日本人の警官が家の前に立つ。役人から呼び出しが来る。それだけで多くの朝鮮人が恐れをなし、おどろく対応した。断つて大変な目に遭った、というような話が回っていました。それからそれが植民地というもので、その後、戦局が悪化するにつれ、暴力性は誰の目にも明らかになっていきました。」
「最後は徴用でした。」
「それが誤解されがちですが、『徴用』は国民徴用令に基づき、国が責任をもつて配置するもので、国の榮譽を担う労働者だったんです。市町村や別居手当など支援もついていた。だから日本人は戦争初期から徴用されました。ところが、朝鮮人にこの制度が適用されたのは戦争末期の44年です。徴用令を適用しないまま、多くを動員したのが特徴です。」
なぜですか。
「日本人と違って、ちゃんとした権利を持つ主体ではなく、法に基づき行政命令がなくても動かせる、と見なされたからでしょう。安くて、敷いた職場でも、つべこべ言わずに働いてくれるだろうと、差別意識があったのです。」
「最近の外国人労働者問題の議論に似ていますね。」
「そうですね。人手不足が深刻な分野で、賃金アップや労働環境の改善によって日本人を定着させるのではなく、低賃金でも働いてくれるような外国人を期間に限って連れてくる、という発想は同じです。省庁をまたいで人員確保に関わる部局が多数あり、利害や思惑の違いを抱えていて、きちんとした方針を打ち出せなかった点も似ている。結果として、なす崩しに動員が広がっていきました。」

裏側から、日本帝国のどんな姿が見えてきましたか。
「戦争に勝つための国家運営や構想、政策とはほど遠かった現実です。総力戦では、まさにその国の素の姿が現れます。英国のように労働運動が盛んな国では、労働者の意見を取り入れたほうが生産性も上がるかと考えた。日本では民主主義も労働運動も弱かった。『ともかく働け』となった。」
「朝鮮に長く住んだ役人の中には、創氏改名に反対した人もいたんですよ。ところが、そういう声は上に届かず、現地の事情に疎い役人が無理な計画を立てた。動員数を達成するため老人や病人までも送り出し、すぐに送り返すようなことまで起きていたのです。」
「民主主義を欠いた社会が、十分な準備も態勢もないまま無謀な目標に突き進むのは、結局はその社会でもっとも弱い人々が犠牲になる。社会全体も人間らしさを失っていく。そういう歴史として記憶すべきだと思っています。」
戦後70年です。首相談話が議論になっています。
「朝鮮半島で起きた歴史を踏まえれば、村山談話にも小泉談話にもあった『植民地支配』への『おわび』は盛り込んで当たり前のことです。ただ、特定の言葉が入るかどうかが注目されることには違和感もある。村山談話には『若い世代に語り伝えていく』とありますが、では歴代政府はその後、何をしたのか。もっと具体的な行動を積み重ね、信頼関係を築くことが大切なのでは？」
「日本には朝鮮をルーツに持つ人も、中国をルーツに持つ人もいます。戦後は一緒に手を携えて、民主的で平和な日本を築いてきました……ということがあるように、なればよいのですが。」

歴史を見る目も、外交関係に引きずられがちですね。
「その時期を生きた私たちの祖先を尊重したい、という思いは私も同じです。ただ、足尾銅毒事件を例に、田中正造は、民族は滅びると批判していた。朝鮮の植民地官僚の家庭で育った作家の堀江幸之も、日本人の責任を問う作品をいくつも残しています。植民地支配に何の矛盾も感じずに職務を遂行した人だけを、私たちが継承すべき日本人の姿だ、歴史だと言っている、とても不自然です。」
「怖いのは、学校教育の現場で、強制連行の問題は厄介だから触れずにおこう、という雰囲気があることです。その気配はすでに現れている。生徒にしてみれば授業では教わらず、書店に行けば嫌韓本が山積みなんです。なかつた論を信じ込みはしないまでも、語られてきた歴史は少し違っているのか、という疑問を持つ人が増えておかしくない。」
「追悼碑の問題も、自治体は明らかに腰が引けている。地元の人々が強制連行の歴史を掘り起こした地域も少なくないんです。そんな歴史があったというのを自治体トップがきちんと認め、発信する。歴史の真贋を見抜く力が、いま私たちに求められています。」
(聞き手・萩一恵)